

学校教育ビジョン 【学校教育目標】心豊かにたくましく 自主的に活動し 自らの生き方を創造する 児童生徒の育成

【めざす子ども像】

- ・自ら課題を見つけ、進んで学び、将来の夢に向かって努力する子（自主性）
- ・一人ひとりの違いを認め、思いやりの心を持ち、他者も自分も大切にできる子（道徳心）
- ・社会のルールやマナーを守り、責任を持って行動できる子（社会性）
- ・心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦し、やり遂げる子（健全な心身）

【経営目標】

- ・授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。
- ・温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係作りを努める。
- ・基本的な生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。
- ・義務教育学校に向けての小中連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。
- ・組織的・機能的な学校運営に努める。

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	子どもを主役にした授業改革を推進し、児童の自主性の育成から学力向上を図る。	子どもを主役にした個別最適な授業を通して教科のねらいを達成するため、教員のねらい設定力や単元設計力の向上を学校研究で行う。	学習指導部 (教務主任・研究主任)	個別最適な学びを意識した授業に各教員が取り組んできた。今年度はさらに指導の個別化と学習の個性化を意識した授業改善を推進する。	【成果指標】 教科のねらい達成を意識した授業改善の結果、児童に学年相当の学力が身につけている。	単元末テストで全校児童の平均点が A:85%以上 B:80%以上 C:75%以上 D:70%未満	国語科・算数科単元末テストの平均点	C		1学期の全学年児童の国語科と算数科の単元末テストの平均点は77.3点(知技77.7点、思判表78.6点)であった。特に、算数科における思考判断表現で伸びが見られた。また、学力の2極化が見られた。下位層への支援のコーディネートを行う。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、安心安全な学級づくりを行う。	学びのスタイル(シン北前プロジェクト)を活用し、生徒指導の4視点のある授業を行う。	生徒指導部 (生徒指導主事・道徳推進教師)	学年によって自分の思いを相談しにくい児童が見られる。授業の中で生徒指導を行い、安心安全な学級をつくる。	【満足度指標】 生徒指導の4つの視点を大切に、児童を認め、支えていく授業が行われている。	「学校には自分のよいところを認めてくれる先生がいる」と答える児童の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	児童対象アンケート (学期末)	B		3年生以上児童アンケートの結果、A評価56.8%、B評価29.3%、計86.2%の児童が肯定的だった。生徒指導の4つの視点のある授業づくりが効果的だった。2学期は、児童の見取り、認め・ほめる、価値づけることを意識した授業をより一層行う。
③キャリア教育・進路指導	9年間の成長を見据えた小中連携を図り、将来に向かって希望や夢や目標をもって生きる意欲や態度を形成する。	中学生卒業をゴールに見据え、自己のキャリア形成をはかるためにキャリアパスポートでの振り返りを行う。	生徒指導部 (キャリア教育担当)	キャリアパスポートを活用し、義務教育9年間でキャリア教育を意識して進めている。しかし、児童の自己肯定感の向上が課題となっている。	【満足度指数】 活動後に振り返りを行うことで、児童の自己理解、自己肯定感が高まっている。	「自分にはよいところがある」と言い切る児童の割合が A:50%以上 B:40%以上 C:30%以上 D:30%未満	児童アンケート (学期末)	B		児童アンケートの結果、A評価46.4%、B評価41.6%、計88%の児童が自分にはよいところがあると思うと回答した。キャリアパスポートの1学期の取り組みは、学校行事を中心に自分の成長を振り返った。A評価児童を増やすため、2学期は各学年で自分・友達の良いところ見つけの取り組みを行う。
④保健管理	自己調整力を働かせ、健康な体を作ろうとする態度を育てる。	「元気アップ週間」を活用し、自分の生活を計画し、振り返りを行う。	保健体育指導部 (保健主事・養護教諭)	元気アップ週間では起床時間や就寝時間、メディアの時間等を自己決定させ、自己の生活リズムを整えている。	【努力指標】 「元気アップ週間」期間中の取り組みをもとに、自分の生活習慣の課題を解決するための実践力が身につけている。	「自分で計画し、自分で守ろうとできた」という児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	元気アップカード (実施後)	C		元気アップ週間の取り組みの結果、「自分で計画し、自分で守ろうとできた」とA評価した児童は60.4%であった。元気アップ週間の取り組みは継続し、1学期の取り組み方や2学期の元気アップ週間の取り組み方について自分事として振り返らせ、自己調整力を高める。
⑤安全管理	安全教育を推進し、児童の命を守る意識を高める	小中連携し、本校の立地条件を想定した避難訓練を行う。また、校内研修を通して安全教育に対する職員の意識を高め児童への指導に活かす。	教頭・安全教育担当	避難訓練や防犯教室などの事前校内研修を通して安全教育に対する職員の意識を高めてきた。	【満足度指標】 避難訓練や研修会を通して、危機管理意識や危機対応能力を高めることができる。	避難訓練や研修会の実施により、危機管理意識や危機管理能力が高まったと判断する教職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)	A		防犯教室、避難訓練(不審者対応、津波対応、地震対応)、職員研修(消火栓、不審者対応)を実施。危機管理意識が高まったとA評価の回答が100%だった。今後も消火訓練や安全教育を継続して実施する。
⑥特別支援教育	インクルーシブ教育の視点で児童の多様性を認め、すべての児童の居場所を確保する。	合理的配慮の裾野を広げ、個に応じた学習の手段や支援の充実を図る。	生徒指導部 (特別支援コーディネーター)	児童理解や支援会議で児童の困り感が軽減するように支援方法を考え、支援を行っている。	【満足度指標】 支援が必要な児童について現状を把握し、支援の在り方を見直す研修を実施する。	有効な研修が行われ、児童理解や支援につなげることができたと判断する教職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)	A		A評価87.5%、B評価12.5%の合計100%であった。研修だけでなく、特別支援学校からのサポーター訪問を機会にアドバイスをもらい、教員それぞれが特別支援の在り方を考えることができた。2学期は、合理的配慮の認識を深める、日々の情報交換や研修を行う。
⑦組織運営・業務改善	次年度の義務教育学校開校に向け、小中の連携分担により円滑な組織運営に努める。	学校経営会議や分掌部会を開催し、教職員の学校運営に対する参画意識を高める。	学校経営会議 (校長・教頭・各主任)	業務改善の意識は高まっており、協力体制もできている。	【満足度指標】 学校経営会議や分掌部会を通して、積極的に組織運営に努めている。	学校経営会議や分掌部会が学校運営に有効だったと判断する教職員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	教職員アンケート (学期末)	B		学校経営会議や分掌部会が、学校運営に有効だったと肯定的な回答80%だった。学校運営の参画意識を高める声かけとフィードバックをより一層行いながら、分掌部会での主任層のファシリテートや部会の在り方を見直す。
⑧研修	主体的に学ぶ児童を育成することを意識した授業づくりのため、研修に積極的に参加し、授業実践に生かすことで、教師力を高める。	授業改革を推進するため、小中連携した授業研究や互見授業、主体的な学びを推進する他校の公開授業への参加などを、積極的に、授業に生かす。	研究推進委員会(研究主任・GIGA推進リーダー・若プロ担当)	昨年度の学校研究の結果、本校のICT活用は進んだが、児童の自主性に課題がある。	【満足度指標】 研修を通して身につけた技能を授業に活用し、児童が自分で考え、自分から取り組むことができる授業づくりを行う。	「授業で課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていく。」(全国学テの質問を活用)と回答した児童の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	児童アンケート (学期末)	A		児童アンケートでは、A評価39.3%、B評価42.6%、計81.9%であり、肯定的な回答だった。また、「自分で計画して進める授業に自分から進んで取り組んだ」という児童も86.5%だった。今後は、児童が主体的に学ぶための、課題設定やねらいの明確化、見取りなど、教科のねらいを達成するための単元構想を充実させる。
⑨保護者、地域との連携	地域、保護者と連携し、「地域とともにある学校づくり」を進める	地域の方や保護者が参加型の学校行事や学校公開などを行う。	教頭 教務	学校の様子や児童の様子をより理解するため、行事参加を望む声が寄せられている。	【成果指標】 学校行事や学校公開などへの参加で児童や学校の様子について感想や改善点を募集し、次年度の行事運営に生かすことができる。	参加型の学校行事や学校公開で参観者から意見を募集した回数が A:7回以上 B:5回以上 C:3回以上 D:3回未満	学校行事や学校公開での意見募集アンケート	C		授業参観、運動会、学校公開の3回でアンケートを実施。保護者や地域の方からアンケート実施に対する肯定的な意見が見られた。2学期以降も継続し、いただいたご意見や改善策を学校日より等て発信する。
⑩教育環境整備	次年度の義務教育学校開校に向け、校務用データ整理に努める。	校内ネットワークにあるファイルデータのフォルダ構成を含めて整理する。	GIGA推進リーダー・教頭	校内ネットワーク内のデータの保存場所が定まっておらず、同ファイル別の場所に複数個存在している。	【成果指標】 校内ネットワーク内のデータの整理ができる。	担当校務分掌のファイルデータの移動ができた教員の人数が A:10人全員 B:8人以上 C:6人以上 D:6人未満	校内のファイルの整理状態	D		NAS及びクラウドの整備が不十分だったため、データ移動が滞っている。そのため、実施を進めている教職員の数は4名となった。夏休みを利用し、データの整理と移動を行うよう声かけを実施する。